

技術的課題の見える化のための アンケート等実施方法について

- 資料 2 - 1 で示したアンケートを下表の要領で実施し、**本推進会議の検討対象技術**に関し、**全国特別重点調査等での活用等を通じ明らかにした技術的課題を、より詳細に把握（見える化）**する。
- アンケートで把握された技術的課題に基づき、本推進会議において、**検討対象技術に対する開発目標の設定***を行う。
*例えば、大口径で水位が高く潜行目視が困難という**調査難所**においてドローンを活用し解決しようとする場合、スクリーニング調査として活用するのか、詳細調査として活用するのかなど**用途を明確化**したうえで、当該用途に求められる**要求性能と現状の技術水準・課題とのギャップ**を埋めるための**開発目標**（例えば、飛行時間・画像解像度・自己位置誤差等）

項目	内容
実施期間	2025年10～11月（予定）
アンケート対象	本推進会議の検討対象技術を用いて、全国特別重点調査等を実施している自治体及び民間事業者（必要によりヒアリング実施）
調査内容	（１）調査難所の詳細 ➢ 調査難所の構造・流下状況・環境及び調査難所である理由（可能な範囲で構造図等も収集） ➢ 調査難所の延長（理由別、管径別） ➢ 調査難所で有用であった調査技術や工夫（→水平展開） 等 （２）本推進会議の検討対象技術毎の現状の技術水準・技術的課題・ニーズ ①-1 ドローン・浮流式TVカメラ調査 ➢ 飛行能力（時間・曲線部飛行等）、撮影機能（解像度等）、自己位置推定等に関する現状の技術水準・技術的課題・ニーズ ➢ その他必要な機能や性能（管路の形状を把握するための機能 等） ①-2 AI画像診断 ➢ 用途／期待する導入効果／課題／今後の開発予定 等 ②大深度空洞調査技術、③大口径管の管厚・強度測定技術、④大口径管の改築技術 ➢ 現状の調査方法（手法、適用条件、評価方法等）／課題／必要な機能や性能／今後の開発予定 等 （３）管路調査診断業務の現状のビジネスモデル 発注形態／資格要件／参照図書・基準類 など （ビジネスモデル検討のための現状把握）